

## 妙高火打山澄川大滑降

86・5・3-4

（元元元元元元元元元元）

メンバー：原 伸也 (RSSA) 加藤康男、菅沼 博 3名

一昨年の焼山の滑降を満喫したおり、火打山の北東面に澄川といって焼山の北面と比較しても孫色のない絶好の山スキールートがあることを聞かされていた。時がたつうちに記憶の奥底にしまい込まれてしまい、最近はすっかり忘れていたのだが今年の岳人の山スキー特集号に紹介があり、あっそうだ！と思い出した。たまたま原氏から図があった時に5月の予定としてこのルートをいったところ、それでは一緒にということになり、今山行が実現した。

岳人2月号にはグループドボームの山田氏が書かれており、標高差2200m、距離18kmと紹介されている。下部の350mと6kmはほぼ平坦で割り引いて考える必要があるが、それでも標高差1850m、距離12kmは国内でも第一級の山スキールートだろう。今回は連休ということもあって3日で計画したが、基本的には1泊2日で充分だろう。頑張れば笛ヶ峰早朝発で日帰りも可能だろう。本邦屈指の豪雪地帯だが、澄川そのものが長く下部は地形的にデブリの堆積も望めないようで、3月中は第一発電所まで滑降できると書かれているが、早い時期に流れが現れる可能性がありそうだった。

5月3日（土）曇り

前夜、連休の人出でごったがえす上野駅を臨時の急行で出発する。偶然にも座ることができた。早朝妙高高原駅着。例の赤いシャレードが駅前に止まっており、中で仮眠中の彼を起こす。今日は高谷池までなのでゆっくりと出発の準備をし、笛ヶ峰へはタクシーを利用する。妙高国際スキー場は積雪がほとんど融けてしまっているのに笛ヶ峰は一面の残雪だ。ただ登山道横の小沢が流れしており、澄川はどんなだろうかと少し心配になった。

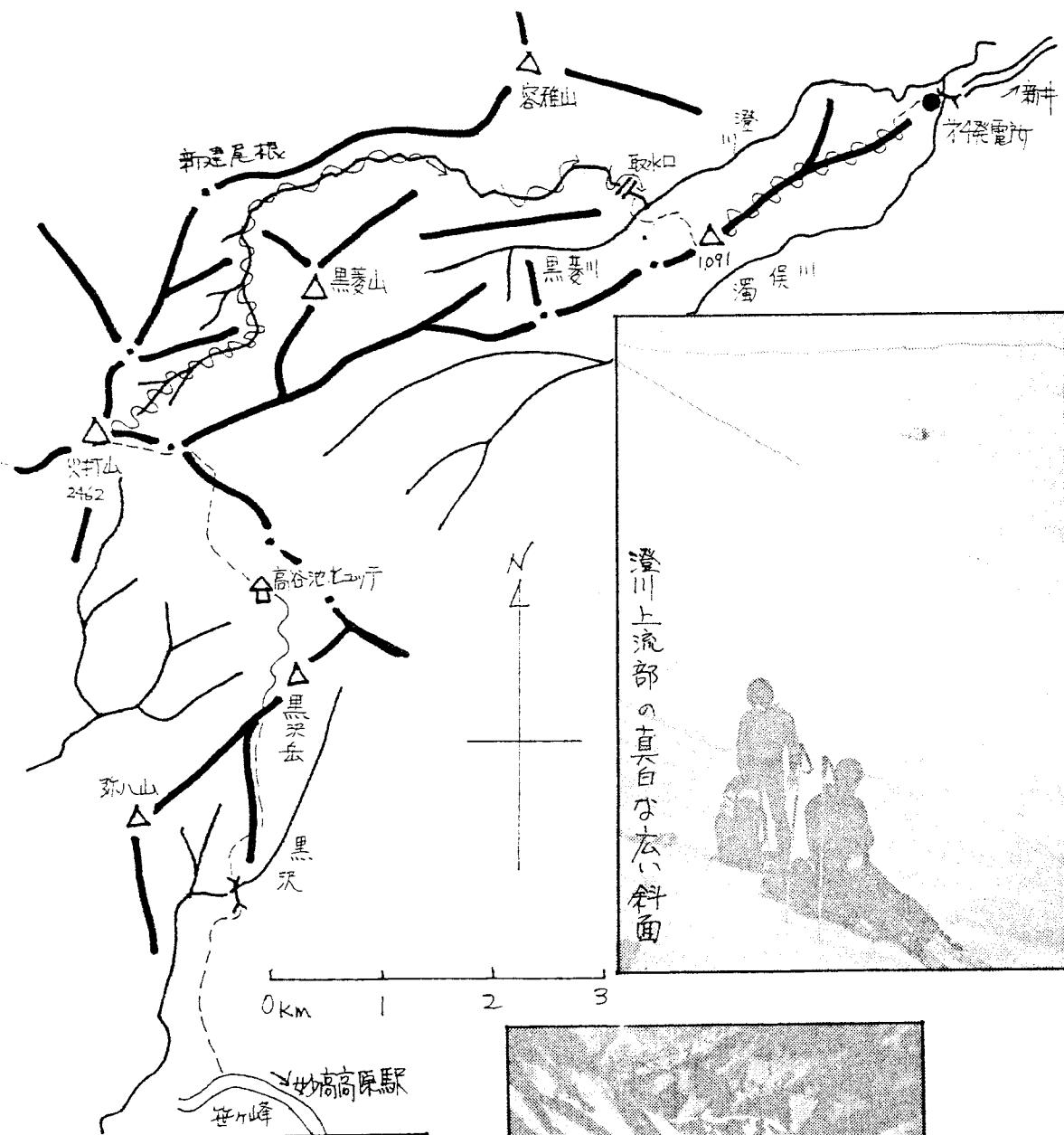
黒沢までは緩く広い斜面で勝手に好きなところを登る。黒沢の橋を渡った所からは尾根への急登となる。スキーを引いて先行者のバケツに足を運ぶ。十二曲りの急射面を登りきると、これまた急な尾根上にでる。今日のペースは30分登って20-30分休むというウルトラスローペースだ。尾根上で東京鈴蘭山岳会の8人パーティーに追い越される。あとからあとからどんどんと人が続いており、さすがG・W、山は一杯といったところだ。兵庫の武庫川女子大の女子大生と一緒にになり話をしながら登ることになった。彼女たちも超スローペースで酔っぱらった僕たちのペースとよくあうようだ。OBの一人を除くとみんな小柄でまるで荷物が歩いているそんな感じだった。

高谷池に着いた時には出発してから大部時間がかかっていたようだ。着いたら着いたでまた酒を飲み、とても頂上どころではなかった。鈴蘭の5名は偵察がてら山頂を往復していた。夜は夜で鈴蘭のテントでイワナの骨酒をごちそうになった。

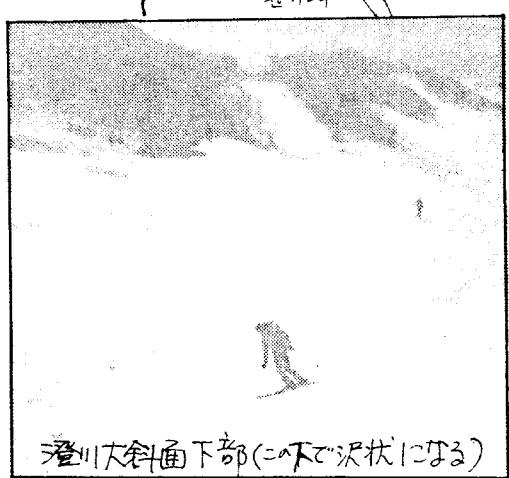
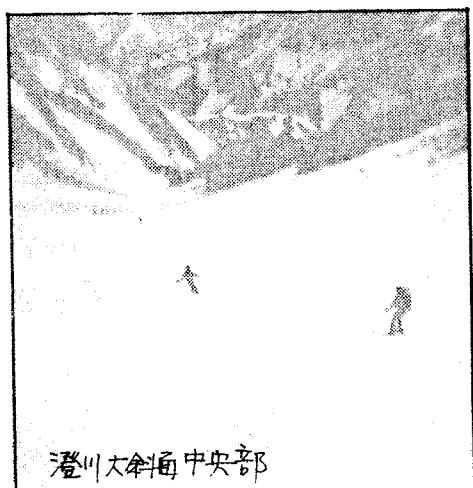
5月4日（日）曇り後晴れ

前夜の酒のためか少し寝過ごしてしまった。火打山までは近いのでゆっくり出て時間調整をするつもりだったのが、少しあわてて食事を作った。多くのパーティーはぞくぞくと出発して行く。結局鈴蘭のパーティーも出発してしまいたいが後から追いかけることになってしまった。すこしでも下りがあるとすぐにスキーをはいて滑ってしまう。登りは大きなバケツに助けられる。山頂付近には雪が無い。例年より少し少ないとのことだ。山頂からの展望は雄大で、隣の焼山も残雪は少ないようだ。北面台地上のテントも見える。後立山連峰も間近に見える。大雪渓と鎧温泉上の大斜面が特に印象的だ。雪倉岳も真っ白だが標高がイマイチだ。武庫川の女子大生にコーヒーをごちそうになって、いよいよ澄川への滑降開始だ。

鈴蘭の藤田氏が快調に澄川源頭斜面を飛ばして行く。写真をとりながら、一気に標高差400m



澄川上流部の真白な玄武岩斜面



を滑降する。傾斜も斜面の広さも絶品だ。原さんはテレマークで1回1回ジャンプをしながらウェーデルンで滑っている。見た目は快適そうだが、荷物を背負ってのジャンプパターンは大変そうだ。谷が狭くなり両側からデブリも落ちている。滝場らしく時々急になる。危険地帯をすぎ、左へ大きく曲り標高1650m付近まで滑降すると、沢は明るく開けてくる。左手すぐ上に新建尾根が見え尾根上を行く登山者のコールが聞こえるほどだ。

傾斜はだいぶゆるくなり、広くなった沢筋をただひたすら滑って行く。標高900mに発電所の取水口があり、作業らしい人が休んでいる。ここから下は水流が出ておりすぐ下のスノーブリッヂを利用して右岸へ渡る。スキーはとりあえずここでおしまい。スキーをかついで所々雪の消えた道を利用して尾根上へのルートをとる。途中で黒菱川を渡り、少し上がった台地上で大休止とする。桜が咲いていて、さすが5月といった感じが味わえる。再び道を利用して枝尾根を回り込み、広い台地状の所へ出、燕尾根側面の急斜面を登り、燕尾根上の1091三角点の上へ出る。尾根上は雪堤のなごりが残っており充分滑っていける。途中送水管があって急な尾根を送水管に沿って滑る。送水管横の急斜面を2回滑った所でスキー終了。少し歩いて矢代川第三発電所へ下る。

ここでタクシーを呼んでもらい、二本木駅へ出る。下の部落までは相当遠く、早い時期にはあとが大変そうだ。

妙高高原の温泉で汗を流し、1日早いが帰京した。

鈴蘭の藤田氏はじめメンバーの方々、原さん色々お世話様でした。

コースタイム： 笹ヶ峰9:00—高谷池14:00／6:50—火打山9:00／20---  
1700m 10:10／30—取水口下11:00—燕尾根上12:30／40—スキー終了点13:00—発電所13:10／20—対岸駐車場13:40

テレマークでさっとうと。—原さん

テレマークは7倍は疲れるとのことだ

広川渓谷を快適に滑ばす。